



# きらきら



新潟市立沼垂幼稚園  
園だより  
令和5年12月20日発行

## 園長室に届いた贈り物

園長 青木博子

あれっ？ 隣の教務室が静かになりました。年長さんたちがそっと入ってきたようです。子どもたちが、教務室から園長室のドアに近づいてきましたよ。担任の先生の小さな声が聞こえてきました。「園長先生はいらっしゃるかな。眠っていたら、起こしちゃだめよ」。子どもたちの気配を感じたので、慌てて眠ったふりをします。机の方に近づいて来た気配がします。かさっと何かが置かれて、子どもたちは声も出さずに、そっと園長室を出ていきました。



目を開けると、机の上に、プレゼントが置かれていました。そうです。かわいいサンタさんからの贈り物が置かれていたのです。包みを開けてみると写真の車がありました。

ありがとう。一生懸命に作った素敵な車も、なぜか眠っている園長先生を起こさない優しさも、とてもうれしかったですよ。本当にありがとう。園長先生は、この車を園長室に大切に飾りますね。

もう一度、写真をご覧ください。110の文字がありますね。そして、その数字の先にあるのは、赤色灯ですね。赤いストローに白のガムテープを丸くまとめて、ぴったりと取り付けています。4つの車輪も、竹ひごをストローに通してあり、回るようになっています。前と後ろのライトは違う色です。

すごいですね。あれこれ工夫しながら楽しんで作っているのが分かりますね。何よりも、受け取る人がどんなに喜ぶだろうとわくわくしながら作ったことがとてもよく分かります。世界に一つだけの車です。

さて、お子さんが作品を持ち帰ったら、何と声を掛けますか？

私たちはどうしてもより高度なものを求めてしまいがちです。もっとこの色を使えば。もっとここを直せばと。でも、大切なことは、決して見栄えのいいものを作ることはありませんよね。

子どもたちの作ってみたいという創造への意欲、本物らしくしたいと創意工夫する力、自分なりにできたという充実感や満足感を伸ばすことが大切です。そのためには、子どもたちが何をしようとしたのか、どんな思いで作っていたのか、何を頑張ったのか想像し、様子を精一杯思い描き、認めて、ただただ褒めることしかないとは私は考えています。

次の日、年長さんのお部屋でいつものように子どもの様子を見ていました。すると「園長先生、昨日、サンタさん来たでしょ？」

と聞かれたのです。その時の、私を覗き込む、楽しそうないたずらっぽい視線も、子どもたちの本当にうれしそうな、こぼれるばかりの笑顔も、私にとっては素敵な贈り物でした。

